

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 31 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520064

研究課題名(和文) イスラーム法から見たムハンマド一族

研究課題名(英文) The Prophet's Family in Islamic Jurisprudence

## 研究代表者

森本 一夫 (MORIMOTO, Kazuo)

東京大学・東洋文化研究所・准教授

研究者番号：00282707

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：預言者ムハンマドの一族を称する人々のムスリム諸社会における立場と役割、彼らが主張する血統に対する教義上・イスラーム法上の位置づけ、そして、彼らの血統の正しさを保証する存在である系譜学者たちの活動について研究を行った。特に、14-15世紀に活躍したイラクのシーア派諸都市出身の系譜学者たちの活動を検討し、それが当時のシーア派コミュニティの勢力拡大戦略(「隠れた宗派主義」)と深く関係していたことを解明した。これは、預言者一族の血統に対する教義上・イスラーム法上の位置づけがどのような歴史的展開を見せてきたのかを考える上できわめて重要な発見である。

研究成果の概要(英文)：This research project explored the roles and positions the putative kinfolk of the Prophet Muhammad held in Muslim societies, different dogmatic and jurisprudential stances regarding the special meaning of the Prophetic descent such people claimed, and the activities of the experts of their genealogies, that is, those who were expected to guarantee the authenticity of the descent claimed by those putative kinfolk of the Prophet. Most importantly, the research project uncovered that the activities of the genealogists from Shi'i centers in Iraq in the 14th and the 15th centuries were deeply related with the strategy of the Shi'i community at the time to promote its interests ("covert sectarianism"). This discovery significantly promotes our understanding of how dogmatic and jurisprudential understandings of the meaning of the Prophetic descent evolved over the related centuries.

研究分野：イスラーム史

キーワード：サイド シャリーフ 系譜学者 シーア派

### 1. 研究開始当初の背景

イスラーム教の預言者ムハンマドの一族を称する人々に関する研究は、彼らが様々な地域のムスリム諸社会に広く見られ、様々な形で尊崇の対象とされているにもかかわらず、世界的に見てもいまだ萌芽的な状態である。当研究課題の代表者である森本一夫（以下、森本）は、彼らを扱う系譜学を対象とする学術史的・社会史的研究と、彼らの血統が持つ意味を論じてきた様々な宗派や思想潮流に属す宗教的知識人たちの言説に関する思想史的研究を二つの柱として、この未開拓の分野の研究に従事してきた。

この二つの方向での研究において、ともに検討課題として登場したのが「イスラーム法」であった。系譜学に関する研究においては系譜学者の学説や裁定のイスラーム法上の位置づけが問題となり、宗教的知識人たちの言説に関する研究においてはイスラーム法という領域における関連言説の変遷の解明が一つの課題となっていた。

### 2. 研究の目的

研究開始の時点ですでに、預言者一族の純血の保持に関するイスラーム法の立場は様々な局面で異なることが予想されていた。イスラーム法は、ある局面においては預言者一族の血統の純血を守るために特別な規定を設けていないように見受けられたが、別の局面においては、おそらく社会における慣習に適応する形で、学説に変化が起こったことが予想された。イスラーム教の創始者である預言者ムハンマドの一族が主張するきわめて「イスラーム的な」血統と、イスラーム教の重要な柱であるイスラーム法との複雑な関わりを検討するなかから、そこに見られる複数の「イスラーム的価値」の間の相違、「イスラーム」なるものの多義性と多元性を考えることを大きな目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究課題は、歴史研究の手法にもとづくものであり、手稿本を含むアラビア語・ペルシア語による一次史料と各国語による二次文献の読み込みとそこからの立論を基本的な方法とするものであった。史料研究から得られた議論の妥当性の検討のためには、世界各国の関連の専門家たちとの意見交換、学会発表などの機会を積極的に利用した。

### 4. 研究成果

本研究課題の実施にあたっては、まず系譜学に関する研究に中心的に力を注ぐこととした。特に、その第4部で系譜学者の学知に対するイスラーム法上の位置づけを論じている準備中の著書、*Genealogy of the Prophet's Family in Medieval Islam: The Guardian of Authenticity* の執筆を中心的な課題とすることとした。ところが、研究の途上で、森本がこの著書全体での主張にとって重要な意味

合いを持つ議論を組み立てるに当たり前提としていた事柄に関し、二人の世界的な研究者から、別個に、森本の理解に対して疑義が表明されるということが起こった。具体的には、15世紀のある系譜学者が属していた宗派がシーア派のうち十二イマーム派であったか（森本理解）、ザイド派であったか（二人の専門家の理解）ということが問題とされた。これは、一見小さな差異のように見えるかもしれないが、著書作成計画の上ではきわめて重要な問題であり、研究計画を大幅に変更して、時間をかけてこの問題を解決する必要が生じた。

多数の一次史料の見直しを要した再検討の結果、上記の問題については、森本の理解こそが正しく、疑義を呈した世界的権威たちの理解は間違っていたことが判明した。それだけでなく、再検討の過程で行った徹底的な一次史料の見直しと広範な追加調査によって、当該の系譜学者を含む14、15世紀のイラク出身の系譜学者たち、当時の十二イマーム・シーア派コミュニティが採っていたある戦略を担う役割を果たしていたことも明らかにすることができた。当時の十二イマーム派は、自派の宗派の実践や教義の宣教を通じてではなく、預言者一族というスンナ派・シーア派両者に共通の尊崇対象と自派との間に特別な関係を主張することを通じて自らの利益を追求していたが（「隠れた宗派主義」）、問題の系譜学者たちこそがその尖兵であったことを解明したのである。この成果は著書原稿にも盛り込んだが、十二イマーム派コミュニティに関する研究としての側面をより強く打ち出す形で2本の論文の作成も行った。1本目は“Sayyid Ibn ‘Abd al-Hamid: An Iraqi Shi‘i Genealogist at the Court of Uzbek Khan”であり、これは国際査読誌 *JESHO* に掲載が決定している。2本目は“Covert Sectarianism in the Era of Confessional Ambiguity: Timur, Uzbek Khan and Shi‘i Genealogists from Iraq”であり、これは Brill 社から刊行が予定されている論集に所収される予定である。

このように、本研究課題は、研究途上で起こった不測の事態により、預言者一族とイスラーム法との関わりという当初の中心的な問いに関しては、期間内に形のある成果を世に問うことがほとんどできなかった。しかし、その不測の事態に対応するなかで、世界的に見ても全く新しい重要な研究成果を生み出すことができた。また、この間に著書の第4部に関して行った作業も、不測の事態に成功裏に対応することができたことにより、遠からず世に問うことができるはずである。イスラーム法学者による預言者一族の血統をめぐる言説の変遷に関する研究についても、本研究課題の研究活動の一部として、東京大学東洋文化研究所に直接関係するイスラーム法学関連史料を収集することができた。今後は、まずは著書の完成を急ぎ、その上で、本

研究課題によって築いた研究インフラ・内容双方における基礎に依拠しながらイスラーム法と預言者一族の関係に関する研究に関しても成果を発表していきたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

① Kazuo MORIMOTO, “Sayyid Ibn ‘Abd al-Ḥamīd: An Iraqi Shi‘i Genealogist at the Court of Özbek Khān,” *JESHO (Journal of the Economic and Social History of the Orient)*, 査読有, 59, 2016 刊行予定.

<http://www.brill.com/journal-economic-and-social-history-orient>

② Kazuo MORIMOTO, “An Enigmatic Genealogy of the Timurids: A Testimony to the Dynasty’s Claim to Yasavi-‘Alid Legitimacy?” *Oriens*, 査読有, 44, 2016, 145-178.

<http://www.brill.com/oriens-3>

③ 森本一夫「ティムール家のアリー裔血統主張に関する新証拠」*オリエン*、査読有, 57-2、2015, 77-90.

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jorient/-char/jal/>

④ Kazuo MORIMOTO, “Book Review: Arnold E. Franklin, *This Noble House: Jewish Descendants of King David in the Medieval Islamic East*, Philadelphia: University of Pennsylvania Press,” 査読誌からの依頼による寄稿, 11-2, 2014, 211-213.

DOI: 10.1017/S1479591414000084

⑤ Kazuo MORIMOTO, “Book Review: Stephennie Mulder, *The Shrines of the ‘Alids in Medieval Syria: Sunnis, Shi‘is and the Architecture of Coexistence*, Edinburgh: Edinburgh University Press,” *Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, 査読誌からの依頼による寄稿, 77-3, 2014, 577-579.

DOI: 10.1017/S0041977X14000615

[学会発表] (計8件)

① Kazuo MORIMOTO, “Jadhdhabyat-i pazhuhish-ha-yi tarikhi: Chiguna yafta-ha-yi juz‘i u parakanda dar bazsazi-yi tarikhi ahammiyat mi yaband?” Sukhanrani-yi ‘Ilmi-yi Danishkada-i ‘Ulum-i Insani-yi Danishgah-i Firdawsi-yi Mashhad (招待講演)、2015年12月20日、マシュハド(イラン)。

② Kazuo MORIMOTO, “Jaygah-i Sabzawar dar shabaka-i Shi‘iyan-i Dawazda Imami dar Dawra-i Pishin-i Taymuri,” Kungra-i Baynul-milali-yi Sarbadaran (国際学会招待講演)、2015年12月17日、サブゼヴァール(イラン)。

③ Kazuo MORIMOTO, “The Identity of Sayyid Ibn ‘Abd al-Hamid, a Close Associate of Ozbek Khan,” The Seventh Biennial Convention of the

Association for the Study of Persianate Societies, 2015年9月9日、イスタンブル(トルコ)。

④ 森本一夫「ウズベク・ハーンの師父「サイイド・イブン・アブドゥルハミード」の素性：ナジャフからサライ、ホラズムへ」日本中東学会第31回年次大会、2015年5月16日、同志社大学(京都府・京都市)。

⑤ Kazuo MORIMOTO, “Ibn ‘Inaba between Sunnism and Shi‘ism,” Confessional Ambiguity, ‘Alid Loyalty and Tashayyu‘ hasan in the 13<sup>th</sup> to 16<sup>th</sup> Century Nile to Oxus Region (招待講演)、2014年9月19日、オックスフォード(英国)。

⑥ Kazuo MORIMOTO, “Impostors Unmasked: What the *Bayān al-ad‘iyā* (14<sup>th</sup> c.) Can Tell Us about Sayyid Genealogy and Identity, IMPAcT Lecture Series (招待講演)、2013年11月8日、オックスフォード(英国)。

⑦ Kazuo MORIMOTO, “Varying Criteria for a True Sayyid: Discrepancy between Genealogists and Jurisprudents,” The Sixth Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies, 2013年9月3日、サライエヴォ(ボスニア・ヘルツェゴヴィナ)。

⑧ Kazuo MORIMOTO, “A Thirsty Market in the East: Ibn ‘Inaba and His Sayyid Genealogies,” The 9<sup>th</sup> International Conference on Iranian Studies, 2012年8月4日、イスタンブル(トルコ)。

[図書] (計6件)

① Ehsan Yarshater (ed.); Kazuo MORIMOTO et al. (contributors), Encyclopaedia Iranica Foundation, *Encyclopaedia Iranica*, 2016, online.

② Kate Fleet et al. (eds.); Kazuo MORIMOTO et al. (contributors), Brill, *Encyclopaedia of Islam*, 3<sup>rd</sup> ed., 2016, (ページ未定: “Ibn ‘Inaba”).

③ Sarah Bowen Savant and Helena de Felipe (eds.); Kazuo MORIMOTO et al. (contributors), Edinburgh University Press, *Genealogy and Knowledge in Muslim Societies: Understanding the Past*, 2014, 164 (11-23: “Keeping the Prophet’s Family Alive: Profile of a Genealogical Discipline”).

④ C. Mayeur-Jaouen and A. Papas (eds.); Kazuo MORIMOTO et al. (contributors), Klaus Schwarz Verlag, *Family Portraits with Saints: Hagiography, Sanctity, and Family in the Muslim World*, 2014, 462 (106-124: “The Prophet’s Family as the Perennial Source of Sainthood: Al-Samhudi on ‘Ilm and Nasab”).

⑤ Rasul Ja‘fariyan (ed.); Kazuo MORIMOTO et al. (contributors), Nashr-i ‘Ilm, *Jashn-nama-i Ustad Sayyid Ahmad Ishkiwari*, 2013, 1224 (959-1004: “Bayān al-ad‘iyā”).

⑥ Kazuo MORIMOTO (ed.), Routledge, *Sayyids and Sharifs in Muslim Societies: The Living Links to the Prophet*, 2012, xii + 276 (1-12: “Introduction”; 15-36: “How to Behave toward Sayyids and Sharifs: A Trans-sectarian Tradition

of Dream Accounts”).

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

森本一夫の連絡板

<http://homepage3.nifty.com/morikazu/>

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

森本 一夫 (MORIMOTO, Kazuo)

東京大学・東洋文化研究所・准教授

研究者番号：00282707

### (2)研究分担者

なし ( )

研究者番号：

### (3)連携研究者

なし ( )

研究者番号：